

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070001260
法人名	社会福祉法人 若杉会
事業所名	グループホーム浜の宮
所在地	福岡県築上郡築上町大字高塚763番地の3 (電話) 0930-56-0577

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年9月14日

### 【情報提供票より】(平成19年7月19日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年10月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.5人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	1階建ての ~ 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	1,200 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要 (平成19年7月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	9 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田医院・新行橋病院・有本歯科医院
---------	-------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は海にほど近く、周防灘に流れ込む中洲のような場所に立地している。周りには民家があり、中央公民館も近い。自然公園や天満宮は散歩コースであり、海水浴や潮干狩りもできる風光明媚な所である。平屋建ての中央に玄関があり「くつろぎ」と「やすらぎ」の2つのユニットに分かれている。造りはほぼ同じで、木造りのぬくもりが伝わってくる和風モダンな建物である。断熱と遮音に優れたガラスや24時間換気システムを取り入れ、個室や廊下の温度差の少ない快適な空間が作られている。朝の読経は利用者の発案で始まったものだが今では生活リハビリの一つになっている。職員は利用者の日常生活の中に能力を活かすような作業や生活そのものがリハビリになるよう、寝たきりにならないように、皆で話し合いながら生活を支援している。学習会やミーティングが充実しているのも特徴の一つといえる。利用者本位の介護を目指しているのが伝わってくる。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、職員の声の大きさや足音等に関しては、大きな声は出さないように近くで話したり、スリッパを変える等、工夫している。人権学習の取り組みや地域に対する連携等も具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で十分検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に開催している。外部評価の報告や改善課題について話し合い、また、事業所の現状や今後の取り組みについて報告を行って、委員から意見をもらっている。その結果は各ユニットに回覧している。課題は全体ミーティングで話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会を年2回開催して、苦情や意見を聴取している。玄関に意見箱を設置したり、家族等の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努め、それらを運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域活動や行事に参加している。近隣の小学生と交流したり、中学校の職場体験を受け入れている。また3ヶ月に1回、ホーム便りを地域向けに発行し、行政や近隣の老人会、民生委員児童委員等に配布している。個人的なボランティアや地域の介護相談を受入れている。

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりの為に寄り添う」「笑顔で家族と共に地域の中へ」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は全体ミーティングでその都度理念を確認している。管理者と職員は理念を理解して共有し、日々の介護で実践している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域活動や行事に参加している。近隣の小学生と交流したり、中学校の職場体験を受け入れている。また3ヶ月に1回、ホーム便りを地域向けに発行し、行政や近隣の老人会、民生委員児童委員等に配布している。個人的なボランティアや地域の介護相談を受入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で十分検討して取り組んでいる。前回評価での改善課題について、職員の声の大きさや足音等に関しては、大きな声は出さないように近くで話したり、スリッパを変える等している。人権学習の取り組みや地域に対する連携等も具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。外部評価の報告や改善課題について話し合い、また、事業所の現状や今後の取り組みについて報告を行って、委員から意見をもらっている。その結果は各ユニットに回覧している。課題は全体ミーティングで話し合っている。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回、地域向けのホーム便りを発行し、行政にも配布し、その他に相談へ行く等、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、家族等へ家族会で説明している。外部研修で受講したパンフレットを学習会で配布し、全職員の周知を図っている。成年後見制度のパンフレットと学習会を実施した記録が残っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族向けのホーム便りを発行している。行事や日常生活を掲載し、個人の様子や健康状態を写真や文章も添付して報告している。金銭管理については、それぞれ台帳に記載し、そのコピーと領収書のコピーを家族へ送付し、確認書に押印して返信してもらっている。また預かり金の入金証書も添付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して、苦情や意見を聴取している。玄関に意見箱を設置したり、家族等の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努め、それらを運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に抑えるように努力している。新任職員に対してはマンツーマンで指導して、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関しては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。正職員やパート職員と区別なく勤務の内容、昇進、定年など平等であり、自己実現の権利は全職員に保証している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権学習は外部講習に職員が出席し、その資料を学習会や全体ミーティングで、他の職員にも周知している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に外部・内部研修を受ける機会があり、また研修内容を全体が共有できる仕組みがある。また、年間の学習計画があり、職員を育成するための具体的な計画がある。学習会や全体ミーティングを定期的で開催し、職員の資格取得の支援もしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者と交流し、サービスの向上に努めている。</p>	○	<p>運営者は管理者だけでなく職員も同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組んでほしい。</p>
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前見学を受入れ、職員が自宅訪問等をしている。即入居になった場合は、家族等に介護内容の説明をし、また周辺環境を確認してもらうことで、利用者及び家族に安心して場の雰囲気に徐々に馴染めるよう努めている。</p>		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備や片付け、畑仕事等、職員が知らない生活の技を教えてもらい、また、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で利用者に声かけし、希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、ミーティングで話し合い、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、家族及び全職員の意見を反映して作成している。介護計画に変更があった場合は、申し送り簿等で伝達し、全職員に周知できる仕組みがある。申し送り簿には職員の押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、また利用者の状態の変化に応じて介護計画を見直している。急激な状態変化がある場合は、家族に電話で連絡して、了承を得ている。家族の押印がある。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は、早期退院に向けて支援している。病院と連絡をし、必要時には家族と共に説明を聞くようにしている。通院や送迎等、必要に応じて個別支援をしている。</p>		



2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、利用前からのかかりつけ医での受診を支援している。通院や送迎等は職員が支援しているが、家族が付き添う場合は、利用者の状態報告書を持参させ、適切な医療を受けられるように支援している		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期のあり方についての方針があり、事業所・家族・本人・医療関係者・担当職員等で話し合い、入居時に家族へ説明をしている。また、折に触れ、家族と話し合いをして、方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法について全体ミーティングで学習会を行っている。職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事できるよう雰囲気作りに配慮している。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、いつでも入浴できるように支援している。入浴拒否する利用者については、タイミングを見て言葉かけをしながら入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や料理等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員は利用者に感謝の気持ちを伝える等、利用者と共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に事業所周辺で散歩や週2回の買い物、月1回のドライブ等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せず、チャイムとセンサーを設置している。職員は利用者の外出傾向を把握しており、利用者が外出する時は、さりげなく後について見守り、一緒に散歩をして帰宅している。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。職員は消火器の使い方や避難誘導及び場所を熟知している。また、非常用食料や備品を準備している。自治会の緊急ネットワークは構築している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民に参加を呼びかけ、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員と調理師が話し合い、利用者の状態や嗜好、要望に合わせて、献立を作成している。食事及び水分摂取量を詳細に記録している。</p>	○	<p>最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には24時間換気システムを取り付け、気になる臭気はない。廊下に畳敷きのベンチを置き、壁には利用者の手作りの壁飾り、食卓には季節の花を飾る等して、過程的雰囲気や季節感に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みや馴染みの物等、生活スタイルにあわせて持込んでいる。また各居室には写真を貼るボードを設置して、思い思いの写真を貼っている。</p>		

※  は、重点項目。